

全学FD2017

大人数講義型授業でのアクティブラーニングの試み
～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル（3）～

報 告 書

実施期日：2017年10月25日(水)

開催場所：共通教育棟（主会場C22）

富 山 大 学

教育・学生支援機構教育推進センター

目次

はじめに	1
当日プログラム	2
参加人数	3
公開授業解説用及び授業用スライド	4
公開授業シラバス	7
公開授業を担当して	8
グループ分け一覧	9
グループ討議ワークシート	10
全体討議の司会を担当して	17
参加者感想	18
参加者アンケート用紙	21
参加者アンケート集計、記述回答	22
結びに代えて	26

は じ め に

本書は、平成29年10月25日（水）午後開催された富山大学全学FD研修会『全学FD2017』の概要報告書です。

本学では、2012年以降、毎秋「全学FD研修会」を開催し、今回が6回目に当たります。2010年に設立された大学教育支援センター（2015年4月に教育推進センターに改組）が主導して開催する以前から各部局等のFDは活発に行われていますが、それを補完する形で特徴を出し、全学の構成員に参加を促してきました。

本学においては、幸い、各部局等のFD参加率が高く、大学として掲げる目標値を上回る状況ではありますが、自力ではFDを開催しにくい小規模部局の教員や、用務が重なり自部局のFD研修に参加できない教員にとっては、この全学FDは貴重な機会と言えます。2015年度から実施してきた、普段の授業のミニ版を公開し、直後に参加学生を交えてグループ討議、全体討議へと進む特有の形態のFDは、他に例を見ない「富山大学モデル」として全国にも紹介され、注目されています。自部局のFDに参加した教員にとっても新鮮で、教育改善活動の促進に繋がると期待されています。

今年度は、昨年度の大坂准教授（経済学部）に続き、人文学部の小助川教授が協力してください、御担当の教養科目を公開授業として提供してくださいました。積極的に名乗り出てくださった小助川先生及び普段は別の曜日の臨時授業にもかかわらず都合をつけて参加してくれた受講生の皆さん、また、当日の受講生減が見込まれる中、急きょ参加してくれた学生の皆さんに深く感謝します。

公開授業の後の受講学生を交えたグループ討議・全体討議も活発に行われ、また、参加者アンケートを見てもおおむね好評なようですから、「富山大学モデル」は一定の有効性を持つことは確かですが、3年間継続したこともあり、教育の質保証を始めとする様々な大学教育の課題に対し、全学FDとしてどのような内容のものを用意するかは今後の検討課題としたいと考えています。

本報告書に採録したグループワークシートやアンケートの自由記述を御覧になると、当日の熱気あふれる議論の様子を垣間見ていただけたと思いますので、当日御参加いただけなかった方、あるいは時間の都合で授業参観部分のみに参加された方にも少しでも雰囲気伝われば幸甚でございます。

最後になりましたが、今回の企画の準備・運営に当たっていただいた全学FD・教育評価専門会議の委員各位及び学務課の職員各位、また積極的に御参加いただいた教職員の皆さんにも厚く御礼申し上げます。

富山大学理事・副学長

教育・学生支援機構教育推進センター長

神川 康子

大人数講義型授業でのアクティブラーニングの試み

～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル（3）～

全学FD2017

プログラム

10月25日（水）13：30～16：45

五福キャンパス共通教育棟C22教室ほか

全体のコーディネーター 橋本教育推進センター副センター長
公開授業担当 小助川人文学部教授

13：30～13：35 神川教育推進センター長挨拶
（共通教育棟C22）

13：35～13：55 全体の趣旨説明と公開授業の解説

13：55～14：00 移動

14：00～14：40 公開授業の参観「職業と人生（富大流人生設計講座）」
（共通教育棟C21） （火曜5限）の短縮版を公開

14：40～14：50 移動（小休憩を兼ねる）

14：50～15：30 グループ討議
（共通教育A棟）

15：30～15：40 移動（小休憩を兼ねる）

15：40～16：35 全体討議
（共通教育棟C22）

16：35～16：45 アンケート記入後、解散

参加人数

	異なり数 (非延べ)	右記 延べ数	公開 授業	グループ 討議	全体 討議
教員					
役員	1	3	1	1	1
人文学部	1	3	1	1	1
人間発達科学部	3	9	3	3	3
経済学部	4	9	4	3	2
理工学研究部(理学)	0	0	0	0	0
理工学研究部(工学)	3	6	2	2	2
医学薬学研究部(医学)	1	3	1	1	1
医学薬学研究部(薬学)	0	0	0	0	0
芸術文化学部	0	0	0	0	0
都市デザイン学部	1	2	1	1	0
センター等	5	7	3	2	2
小計	1 9	4 2	1 6	1 4	1 2
職員					
人文学部	0	0	0	0	0
人間発達科学部	0	0	0	0	0
経済学部	0	0	0	0	0
理学部	0	0	0	0	0
工学部	1	3	1	1	1
医薬系事務部	0	0	0	0	0
芸術文化学部	0	0	0	0	0
学務部	5	7	5	1	1
その他	7	1 3	7	3	3
小計	1 3	2 3	1 3	5	5
学生					
人文学部	8	1 6	8	8	0
人間発達科学部	2	4	2	2	0
経済学部	2	4	2	2	0
理学部	7	1 5	7	7	1
工学部	5	1 0	5	5	0
医学部	0	0	0	0	0
薬学部	0	0	0	0	0
芸術文化学部	0	0	0	0	0
小計	2 4	4 9	2 4	2 4	1
合計	5 6	1 1 4	5 3	4 3	1 8

FD2017 公開授業「見どころ」

人文学部(日本語学)
小助川貞次

富大流人生設計講座(総合科目)

- ・ 前年踏襲:平成24年度～平成25年度
- ・ 全面変更:平成26年度～平成29年度
- ・ 来年度～:アカデミック・デザイン(平成30～33)
- ・ 受講者数:毎年200人ほど(今年度244名)
- ・ 学部内訳:工40%>経済30%>人発>理>人文
- ・ 内容:シラバスを参照してください
- ・ コンセプト:自分→学問→(虚偽と欺瞞)社会

(従来)一方的な講義にならないように

氏名	学号	性別	学年	科目
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35
36	37	38	39	40
41	42	43	44	45
46	47	48	49	50
51	52	53	54	55
56	57	58	59	60
61	62	63	64	65
66	67	68	69	70
71	72	73	74	75
76	77	78	79	80
81	82	83	84	85
86	87	88	89	90
91	92	93	94	95
96	97	98	99	100

教室の様子(授業開始直前)



教室の様子



教室の様子



(今年)一方的な講義にならないように

90分の組み立て

- ・「気づきシート」返却: 16:20~16:30(全員着席)
- ・講義(話題提示): 50分~60分
- ・「最初の気づき」記入: 5分~10分
- ・5名を指名し「最初の気づき」を発表: 5分
- ・少しだけ質問: 5分(あまり上手くない)
- ・「発表後の気づき」記入: 5分
- ・次回の予告
- ・「気づきシート」提出・解散

これまでもの
違い

気をつけていること

- ・私の個人的な見解や価値観が含まれている
- ・授業はあくまでも話題提供(なるべくホットな)
- ・考えるのは履修者
- ・「気づきシート」に目を通す(スタンプや赤線)
- ・次回の冒頭で少しだけ触れる
- ・スライドを使用する/マイクは使わない
- ・スライドにテキストはなるべく入れない
- ・全員が帰るまで教室に残る(窓閉、消灯)

職業と人生(富大流人生設計講座)

2017年10月25日(FD2017)

ステキな恋愛をしたい！ (恋愛相関図を作る)

小助川 貞次

10

昨日のおさらい

image

【恋愛】
特定の異性に對して他の全てを犠牲にしても無い無いと思いたいような愛をい
たき、共に相手のことを想っては、二人だ
けではない、二人だけの世界を自分か
いはいと願う、それがかなえられたと書い
ては置け、もともとでも縁を切れば不
実になるという状態に書けること。
(引用: 恋愛心理学 第10章)

淡い感情を抱いた同級生

image

きちんと付き合えなかった彼女

image

辛い思いをさせてしまった彼女

image

恋愛は素晴らしい！

- ・大人になってもつまずかないために
- ・たくさん経験しておくこと
- 自分の感情をコントロール
- 相手の思いや気持ち
- 恋愛とは自分の感情と自己認識の力
- 「心のひだり」が書かになる
- ・失敗しても人間性成長になる
- ・恋愛経験が「いい思い出」になること

35年引きずっている淡い感情

image

ストーカー 説？

事実は。。。

- ・最初のドラマチックな出会いの翌日に、彼女の職場(病院)に高級なハンカチを贈った。
- ・結局、これが縁で結婚した。
- ・現在も幸せな家庭生活を送っている。

この行為は
ストーカーだ

このくらいの積
極性は必要だ

35年引きずっている淡い感情

image

詳しいことは明日の全学FD2017公開授業で。。。。

X子との 長く 淡い 感情

再会した数日後に交わしたメール

わたし $\longleftrightarrow$ X 子

- 学生時代と変わらな
いご様子に、羨ましさ
さえ感じました
- 降りしきる雪の夜の
別れ際が、とてもロマ
ンチックでした (^o^)
- 降りしきる雪の中に
消えていくタクシーが、
とても幻想的でした *
(^*)。
- 次回も誘ってください
ね。またお会いする
日を楽しみにしてい
ます。

言い訳は許されるのか？

相 手	時 期
中学校の同級生 A子	197X～197X～197X
大学3年のとき B子	197X～197X
大学院のとき C子	198X～198X
今のカミさん	198X～(結婚198X)～
ゼミの後輩 X子	198X～198X～201X～

問題提起はここまで
「最初の気づき」に記入して下さい

5名を指名します
指名された方は登壇して下さい

今日はここまでです
気づきシートを提出して下さい

次回は10月31日
他人夫婦／血縁親子
(家族の愛)

授業科目名(英文名) ／Course Title		職業と人生(富大流人生設計講座)／Life and Career			
担当教員(所属)／Instructor		小助川 貞次(人文学部)			
授業科目区分／Category		教養教育科目 教養科目			
COC+科目／COC+Course ※平成 28 年度入学者から適用		地域志向科目	授業種別／Type of class	講義科目	
開講学期曜限／Period		2017 年度／Academic Year 後期・火曜 5 限	対象所属／Eligible Faculty		
時間割コード／Registration Code		106204	対象学年／Eligible grade	1、2、3、4 年	単位数／Credits 2 単位
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact					
オフィスアワー(自由質問時間)／Office hours		小助川 貞次(平日 12:15-12:45)			
リアルタイム・アドバイス／Real-time advice 更新日					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学習目標)／Course Objective					
虚偽と欺瞞に満ちあふれ、錯綜を続ける現代社会に、若者は一体何を信じ何を期待できるのだろうか。「愛」も「誠」も(1970 年代の漫画のタイトルではない!)、この現代社会の前では無力でしかなく、われわれ教員も学生をどのように導いたらよいのか、途方に暮れてしまう。ある図書(文庫)の刊行経緯(1971 年)にいわく、「まず足下をしっかりと見定めよう。眼下にはニヒリズムの深淵が口をあけ、上には権力の壁が迫り、あたりが欲望の霧につつまれ目をおおうとも、正気を取り戻して、たしかな第一歩を踏み出さなくてはならない」と。「職業と人生」に真剣に向き合うことは、まさにこのような「現代社会」と向き合うことにほかならない。今こそ、富山という地域性を超克した新たな「富大流人生設計講座」を学生とともに創り上げて行きたい。					
達成目標／Course Goals					
この授業と最後まで真剣に付き合う過程を通して、自己や他者や社会と向き合い、自分が成長できたと実感できること。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等)／Class schedule					
★第 1 ステージ：自分を振り返る 1 私たちはなぜ富山県民なのか(動機付け) 2 これはキャリア教育なのか(偽キャリア教育) 3 「三つ児の魂」を分析する(こころの深層) 4 ステキな恋愛をしたい(恋愛関連図を作る) 5 他人夫婦／血縁親子(家族の愛) ★第 2 ステージ：アカデミックな学び 6 富山県と五福キャンパス(学問体系) 7 大学で何を誰に学ぶのか(真の学問) 8 なぜ "Education first" なのか(偏見と差別) 9 自由研究って何だったんだろう(学問の創造性) 10 学問の中立性とは何か(学問と政治) ★第 3 ステージ：虚偽と欺瞞に満ちた世界と向き合う 11 それはあんまりじゃないですか(現代社会の矛盾) 12 学徒は出陣した(学問と戦争) 13 スパイ映画の見過ぎか(暴力と民主主義) 14 富山、日本、世界はどうなる(立ち上がる精神) ★最終ステージ 15 富大流に生きる(大学精神の堅持)					
授業時間外学修(事前・事後学修)／Independent Study Outside of Class					
授業時間中に配布するプリントや指示する課題について詳細に調べ理解を深めること。					
キーワード／Keywords					
富山、富大流、アカデミック・デザイン、自己、学ぶ、向き合う、生きる					
履修上の注意／Notices					
1.初回に出席できない人の履修は固くお断りします。初回を無断で欠席した方には、「気づきシート」を配布しません(「成績評価の方法」を参照のこと)。 2.この授業は例年履修希望者が多く、抽選の結果、履修できない方が出ます。履修者に登録された方は、希望しても履修できない方がいたことをよく理解し、途中で放棄することが絶対にないようにして下さい。 3.抽選に漏れた方で、単位が付かなくても聴講したいという強い希望がある方は、小助川まで事前に連絡して下さい。できるかぎり対応します。 4.授業は、私の物腰の柔らかさや見かけからは想像ができないほど厳しく、毎回の出欠管理、振り返り、課題提出・発表、指名討論など、高くかつ厳しいハードルを課します。遅刻、居眠り、飲食、内職など受講態度の悪い学生は即刻退場の上、以降の出席をお断りします。安易な気持ちで臨んでいる学生には遠慮無く不可を付けます。					
教科書・参考書等／Textbooks					
授業で皆さんが真剣に考えたことが、これから生きていく上での「教科書」になります。もちろん、内容は一人ひとり異なります。					
成績評価の方法／Evaluation					
「達成目標」が達成できていることを、毎回の気づきシートの記載内容(5 点×15 回＝75 点)、および最終レポート(25 点)の内容を精査して評価します。					
関連科目／Related course					
リンク先 URL／URL of syllabus or other information					
備考／Notes					

【公開授業を担当して】

この授業（富大流人生設計講座）は教養教育・総合科目の「職業と人生」として開講している講義型授業で、担当教員は基本的に私一人です。総合科目の開講数と履修対象者（五福キャンパス1年後期）の関係で、履修登録の段階で機械的な抽選を経て履修者が決定されています。平成24年度に私が引き継いで以降、「富大流人生設計講座」というネーミングの良さもあって、お陰様で履修者は例年200名を超えています（今年度は244名！6年間の平均230名）。授業のねらいは、この6年間で多少の違いはありますが、「自分を知る」「専門を知る」「社会を知る」という三つの柱を立て、「虚偽と欺瞞に満ちあふれ、錯綜を続ける現代社会」に向き合って行こうとするものです。授業材料は、どうしても担当教員の関心に基づくために、私の知見や価値観の押しつけになりがちです。そうかと言って、200名を超える受講者の一人一人と対話することも不可能です（橋本先生ならきっとできることでしょう）。そこで、受講者に「気づき」を記入させる簡単なシートを用意し、授業終了時に提出、担当教員がチェック（時にはコメントを付けることも）、次回授業開始時に返却、という流れを作ってきました。

今回、橋本先生から全学FD2017における公開授業のお話があり、「大人数講義型授業でのアクティブラーニングの試み」として引き受けました。これを機に、「気づきシート」を使っているとは言え、基本的には一方通行になっている講義を少しは改革できるのではないかと考えたからです。具体的には、授業の終盤で学生の「気づき」を発表させ（各学部1名×5学部＝5名を予告無しに指名）、その発表を聞いた上でもう一度「気づきシート」に記入させるという二重の「気づき」の場を作りました（気づきシートもこれまでの15回一枚から三枚に増量→記入するスペースも三倍！）。公開授業では、その流れが上手く伝わったのかというと、かなり怪しいかと思っています。恐らく、どんな授業であっても、授業材料の選択、提示の仕方、そのための十分な準備、受講者の気づきや理解を引き出す工夫など、共通することは多くあるはずで、今回の公開授業を通してそのことに私自身が気づけたことが一番の収穫だったのかもしれない。

なお、材料として取り上げた「ステキな恋愛をしたい！」は若者向きではなく、熟年者向けの内容かもしれませんし、授業科目名「職業と人生」とどう関係するのかという点で疑問を抱かれた方もいたかもしれません。しかし、特に後者に関して言えば、芸能人や政治家のゴシップ記事ではなく、若者にとっ

てより身近な問題として恋愛と向き合うきっかけになれば、豊かな「職業と人生」に結びつくのではないかと考えています。

参加された教職員、学生の方々に、またこの公開授業に誘っていただいた橋本先生に厚く御礼申し上げます。

（人文学部教授 小助川貞次）



グループ分け一覧

当日は、多くの刺激を受けられるよう学生と教職員が混在するグループ構成としました。

●印は各グループのファシリテーターで、進行マニュアルを渡して協力をお願いしました。

各グループとも活発な討議を楽しめたようです。

A (A 3 1 教室)

人発	教授
●経済	教授
工学	講師
工学	係長
人文	1 年
経済	2 年
理学	1 年
工学	1 年

B (A 3 1 教室)

●人発	教授
学情	主任
人文	1 年
人発	2 年
理学	1 年
工学	1 年

C (A 3 2 教室)

●人文	教授
医学	助教
工学	准教授
人文	1 年
理学	1 年
理学	1 年
工学	1 年

D (A 3 2 教室)

●経済	教授
都デ	教授
学情	職員
人文	1 年
理学	1 年
工学	1 年

E (A 3 3 教室)

●教セ	教授
人発	教授
学情	部長
人文	1 年
人発	1 年
理学	1 年
工学	1 年

F (A 3 4 教室)

●経済	准教授
工学	教授
人文	1 年
人文	1 年
経済	2 年
理学	1 年

人発：人間発達科学部 学情：学術情報部 教セ：教育推進センター

参考：グループ討議事前申込者数（及び全事前申込者数）

教員 16 名（20 名）

職員 4 名（11 名）

学生 24 名（31 名）

計 44 名（62 名）

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

(○) 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等

() アクティブラーニングに関するグループとしての主張

() その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で報告書資料としてそのまま採録する予定です。

グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。

図式的なものでもOKです。

テーマ「ステキな恋愛をしたい」のActive Learningについて、

→ 日常の身近な正解・不正解がないテーマで、
学生の代表者5人の具体的な意見を聞いて
考えることが面白かった。

⇒ 討論の時間が欲しかった。(物足りなかった)

他者の意見を聞いて、感じたこと・気付いたこと等を
発言することで再考を重ねたい。

※ワークシートはグループ討議終了後速やかにC22教室前で待機中の担当者に提出して下さい。

全体討議で参加者全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

(○) 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等

(○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張

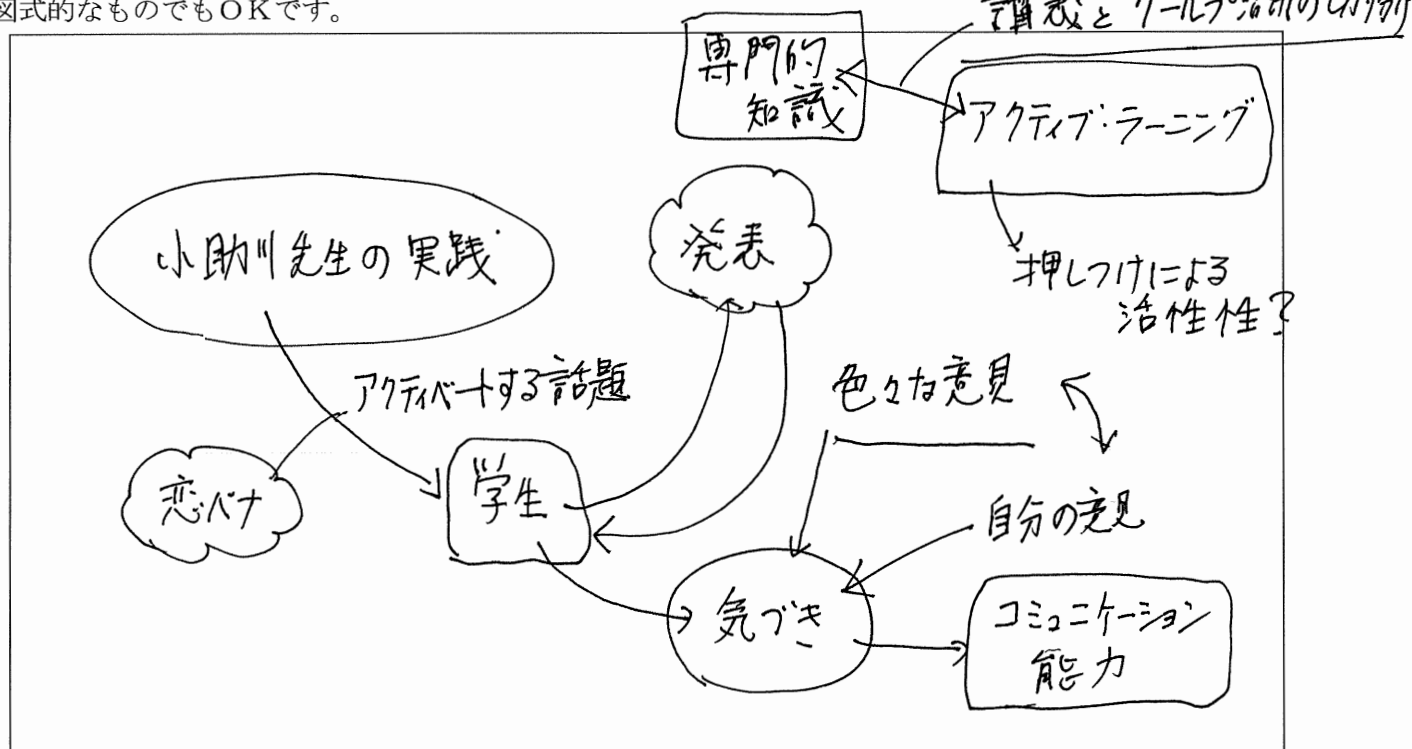
() その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で報告書資料としてそのまま採録する予定です。
グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。
図式的なものでもOKです。



※ワークシートはグループ討議終了後速やかにC22教室前で待機中の担当者に提出して下さい。

全体討議で参加者全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけではなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- () 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- (○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で報告書資料としてそのまま採録する予定です。
グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。
図式的なものでもOKです。

その形に必要がある疑問、授業を受けて内容理解確認(成績+になる)
この形ではアクティブラーニングの決まり形もある

アクティブラーニング賛成。場面面を覚えて行つてく。
ほかの理解を深める。聞いているだけより良い。プリントを配る場面も覚えていて、レジュメだけのことを覚えてく。
小助川先生の話し方の場合に於て、話し方の話し方もある。

理学部では少ない。一度、本を紹介するために、本に於ける単位の(45人のグループ)

解剖では実習前にビデオで学習してきて、実習にのびてく。

漢文 予習等は生徒にまかせている。内容が難しいのを習得させてく。

学習時化 宿題があるが質問の分からないものもある。

宿題はほとんど出ない。

授業の感想

気づき書く時間が足りない。

他人の感想も知ることがある。

※ワークシートはグループ討議終了後速やかにC22教室前で待機中の担当者に提出して下さい。

全体討議で参加者全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけではなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

() 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等

(○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張

() その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で報告書資料としてそのまま採録する予定です。

グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。

図式的なものでもOKです。

- ・ 教養の授業こそ、記憶を定着させるためにアクティブラーニングが必要では。
- ・ 専門の科目でも、現状つめこみ授業が多いので無理かもしれないが、アクティブラーニングを導入してほしい。
- ・ 意見を言ったり、人前で話す機会は、ほかの授業ではないが、あれは「挑戦」してほしい。指導する先生もいる。そこで評価してほしい。

※ワークシートはグループ討議終了後速やかにC22教室前で待機中の担当者に提出して下さい。

全体討議で参加者全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

- (〇) 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等
- () アクティブラーニングに関するグループとしての主張
- () その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で報告書資料としてそのまま採録する予定です。

グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。

図式的なものでもOKです。

② 生じた授業は皆肉にしている 2の授業の手法について?

- 最初、課題提供し与えシート
→ 書くことが必要なので書く
- シートの面数 → 読むにもよる、回答があることは有益
- 他の授業でも同様の反応があるといい
→ 自分にとって学びとなる
- 学習数が増えるシートは不要
何となく難しい

③ どういう形式、授業をやりたいか、授業の負担

- 先生どうやってやるか
→ 先生が授業のやり方がある
→ 授業 (橋本先生の現代社会論)
→ 先生が授業のやり方がある
→ 他の授業にもつながる
- 教員側 → 授業のやり方

④ 効果 (授業の)

- 新しい授業、考えを学ぶ
- 1人1人 → 多数の先生
1人の意見 → 生徒の意見
見えてくる
- 同一年代の意見を聞ける
(5人の学生、先生の意見)
他人の意見

※ワークシートはグループ討議終了後速やかにC22教室前で待機中の担当者に提出して下さい。

全体討議で参加者全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけでなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。

ワークシート

いずれかに○をして下さい。

() 本日の公開授業に関する疑問・批判・提言等

(○) アクティブラーニングに関するグループとしての主張

() その他

[

]

内容

見やすい文字で分かりやすくまとめて下さい。後で報告書資料としてそのまま採録する予定です。

グループメンバーの主張を融合する形でも、誰かの主張をブラッシュアップする内容でも構いません。

図式的なものでもOKです。

1. 大学の授業全般にアクティブラーニングをとり入れるべき。またアクティブラーニング中の授業をもっと、やすべき。

2. アクティブラーニングの前提となる知識をどう体系的に定義させるかが、課題である。

※ワークシートはグループ討議終了後速やかにC22教室前で待機中の担当者に提出して下さい。

全体討議で参加者全員にコピーを渡して共有する予定です。全体討議では、単に自グループの意見発表をするだけではなく、他グループの主張に対する疑問・反論なども自由に発言して下さい。



↑ A グループ討議（手前）



↑ B グループ討議（手前）



↑ C グループ討議（手前）



↑ D グループ討議（手前）



↑ E グループ討議



↑ F グループ討議

【全体討議の司会を担当して】

全体討議の司会は、昨年度に引き続き、教育推進センターの橋本が担当しました。

一昨年度、昨年度と同様、各グループは教職員・学生が混じるように編成し、それぞれのグループには少し慣れておられる先生を中心にファシリテーターをお願いしました。大半が初対面ですから、短時間でいかに打ち解けられるか、また、本音で活発に話し合えるかという点は必ずしも容易ではありませんが、多くのグループでは予定の時間を越えて討議が続き、全体討議でも、それぞれのグループ討議を受けて、活発な発言がなされました。本報告書に採録してあるグループワークシートからも、各グループで、積極的な意見交流がなされた様子がうかがえると思います。

全体討議は、そのワークシートを全員にコピー配布することで共有しながら、グループを越えた全体での意見交換をする形を今年も取りましたが、教員だけではなく、今年も学生から鋭い発言があり、中身の濃い時間が持てたと思います。

目立ったやり取りとしては、ユニークな内容の公開授業であったため、改めて授業の狙いなどを小助川先生に確認したり、アクティブラーニングの評価の難しさについてや、科目の性格上アクティブラーニングを導入しにくい科目をどうしていくか、といった点を議論したりする内容が主でした。

公開授業を担当された小助川先生は、これまでも大人数の授業をどう展開されるかという点で工夫を重ねられてきたようですが、この授業公開を一つの機会と捉えて、普段使われている「気づきシート」の活用に一工夫を加えることを試行され、一定の手応えを感じておられる印象を受けました。

進行上、全員にコピー配布するとなると時間的にやや手間取り、職員の方に少し負担をかけてしまいますが、各グループでの討議内容を共有することは、こうしたFDイベントでは必要不可欠のことであり、やむを得ないのではないかと思います。

次年度以降はどんな形式とするかは未定ですが、参加者全体が集まる場で活発な発言があることは、FDの展開では重要な要素ですので、その点はぜひ今後も引き継ぎたいと考えています。

(教育推進センター教授 橋本勝)



【参加者感想】

前年度は公開授業を担当させていただきましたが、今年度は一参加者として全学FDに参加し、小助川先生の「職業と人生」に興味深く参観させていただきました。以下にその感想を述べるとともに、意欲的な取組みをされている小助川先生に熱いエールを送ります。

キャリア教育は必要だとよく言われます。富山県ではかなりの中学校が中学2年生に職場などを体験してもらう「14歳の挑戦」に取り組んでいます。しかし、取り組まれている中学校の先生方、協力しておられる職場の方に、失礼を承知で言えば、この手の短期間の職場体験は、終了後に学校などで時間を掛けて体験を深める取組みを行わなければ、効果が薄いものであることがキャリア教育の専門家から指摘されています。このことは、富山大学でも行われているインターンシップでも気を付けなければならない点です。

講義スタイルのキャリア教育も多く大学の大学で取り組まれています。しかし、実際に行われているキャリア教育の多くが、普通科高校を出て、大学に進学し、正社員になり、その会社で定年を迎えるという職業的ルートを暗黙に想定している問題があります。このルートは、大学卒業生に限っても、もはや多数派とは言えません。(以上のキャリア教育の問題については、例えば、児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書などを参照)

小助川先生の授業は、こうしたことを踏まえるととても興味深い試みだと感じました。小助川先生の授業は、「14歳の挑戦」のように実際の経験の場を与えるものではないものの、職業も含まれよう人生設計の様々な問題について半年を通じて深める授業です。

公開授業は、小助川先生が一般論ではなくて自分の体験を語り、それに学生の参加者に意見交換をしてもらう形で進みました。自分自身の経験を語る学生はいなかったものの、他者の経験を批評し、論じることは、自分のそれまでの経験や、自分の周囲から社会について見聞きしたことを深める経験になっていると思います。

小助川先生御自身の経験をまな板に載せる形で授業は進むものの、学生たちが小助川先生の経験のどこに注目するかは、事前には分かりません。これは座学のキャリア教育が陥りやすい、どこにもいない「平均的社会人」を想定してしまう危険性を避けることができる工夫のように感じました。

キャリアや人生に関することを教育で扱う上で、大事と思うことの一つは、年長者だから若者より上手く生きられているなんてことはないことです。取分け、小助川先生が今回扱った恋愛などは、ほとんどの人にとって死ぬまで正解が見つけられない種類の問題です。そういう問題について明確で適切な指針を出せるような人は、お釈迦様とかキリスト様のような特殊な人々を除いてはいないでしょう。小助川先生が学生たちの意見交換のまとめをしようとせず、話題提供とファシリテーターに徹していたことは、その意味でとても共感し、普段の学生への説教くさい自分の態度を反省しました。

(次ページに続く。)

この公開授業を含む小助川先生の「職業と人生」の第三ステージは「虚偽と欺瞞に満ちた世界と向き合う」です。実は、大学の中で職業について学生に何か言うとき、現在の社会の中での大学の置かれている「虚偽と欺瞞」について語らざるをえないと感じています。説明すると長くなるので、濱口桂一郎氏の「日本における職業と教育の密接な無関係」という秀逸なキャッチコピーと、その最も象徴的な存在が、ビジネスに有用な知識を学生に与えることを期待させながら、職業的意義が欠如した教育が社会的にも内部からも放置されている日本の大学の経済学部であることの指摘にとどめておきます。御自分の人生経験をまな板に載せるという危険を引き受けてまで、日本の教育の根幹にある欺瞞に立ち向かう小助川先生に共感します。

(経済学部准教授 大坂洋)

講義、グループディスカッション共に興味ある内容で、考えさせられました。

- 1 講義において、小助川教授自身の（しかし、誰にでも起こりうる）過去に経験したデリケートな感情（好意、恋愛感情？）を紹介し、教材として提示します。受講者はタブー視してきた自らの恋愛感情の深淵を見つめ直し、虚飾と実態を確認しつつ、自らが取るべき行動の選択を迫られます。→教材の選定と提示の工夫が重要です。授業者に勇気が要ります。
- 2 自分の考えを、初見と他の受講者数名の発表後とで、2回書かせるという工夫があります。→他者の（異なる）考えを聴くことで自分の考えは変わる（より深くなる）ことを体験します。聴くことの重要性が認識できます。
- 3 学生と教員が対等な立場で、授業の方法についてグループ討議を行います。→授業の改善には受講者の視点が欠かせません。授業者が先進的な取組みを参考に講義に取り入れたり、受講者の様子やアンケートを基に授業改善を行ったりすることはしばしば行われてきたものの、授業者が受講者とやりとり（呼応活動）をしながら、授業方法を練り上げる取組みはあまり行われていません。今回参加させてもらい、呼応活動による授業改善については、受講者との認識の共有や信頼関係の醸成なども含めて色々な視点からの効果が期待できるのではないかと感じました。しかし、自分の講義で実際にやる場合は、どのようなメンバーとどのような形態で行うか検討が必要です。

(教職実践開発研究科教授 新夕義典)

さる10月に開催された全学FD2017に参加しました。

今回は、「大人数講義型授業でのアクティブラーニングの試み～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル（3）～」と題されたテーマの下、人文学部の小助川先生の「職業と人生（富大流人生設計講座）」の1コマを聴講し、小グループに分かれてディスカッションを行いました。

(次ページに続く。)

内容は、先生の授業全15回の内、「ステキな恋愛をしたい（恋愛相関図を作る）」というコマで、先生御自身の赤裸々な（？）恋愛体験を聞いて、ワークシートを埋める作業をグループで行うものでした。誰もが関心をもつに違いないテーマに、生の血がしたたるような新鮮な話を聞くだけでも興味深く、これについて議論することも面白い試みと感じました。私自身もわくわくしながら先生の授業をお聞きしました。

このような形式のアクティブラーニングについては、15回にわたり、新鮮な話題（経験談）を提供し続ける準備とエネルギーにまずは感服しました。今回は作成しなかったのですが、授業名にもある「恋愛相関図」という恋愛チャートを作成することが授業では求められるようです。そこから、恋愛の持つ社会的意味について考えることが授業のアウトプット（目的）と推測しますが、教養教育の実践として授業による学生の認識の変化（向上）の指標をどこに求めるのか、やや難しい側面もある試みとも感じました。

学生さんに聞くとところによると、大変人気の授業とのこと。授業の間、受講者の意識を引き続けることの大変さを考えるとそのこと自体が授業のアウトプットとも言えますが、そのアウトプット（学生による評価）を一般教養（だけにとどまらない）の授業手法の改革の試みとしてどのように生かしていくのか今後の（他の授業につながる）課題もあるように感じました。

（学術情報部長 内島秀樹）

参加型授業での紹介があって、全学FD2017に参加してみました。

今回は、公開授業、グループトーク、全体討議の三部構成でした。

公開授業は（小助川先生自らの恋愛経験を元に授業が展開されますが）他の授業にはないユニークさがあり、そもそも恋愛がテーマの授業は凄く斬新さがあり、面白かったです。

グループ討論では、学生だけではなく教員も一緒に参加しており、自分達とは違った目線からの意見が聞けて、とても貴重な機会であると感じました。

最後の全体討議では、小助川先生自身の授業の意図も聞けて、かなり良い討論になったと思います。

討論していく中で、「アクティブラーニング」そのものについてきちんとした討論をするには一定の予備知識が必要だという点をどう考えるかということが話題になりました。こうした催しに学生が参加するなら、いわば「予習」が必要になりますが、それがあまりに多い量であると学生の負担になり、学生が参加しにくくなるという意見です。

確かに前もって一定の知識を身に付けるのは大変ですが、他人と討論して意見交流することは大事な経験であると思いますし、最終的には自分から発言したり、書いたりする発信力を高めることにつながるので、学生が参加できる今回のようなイベントがもっと増えてほしいです。

こうしたことに関心が薄い学生達の興味をどうやって高めるかについて、学生の立場から考えてみたいです。

（工学部1年 伊藤拓也）

全学FD2017 参加者アンケート

本日は、全学FD2017に御参加いただき、ありがとうございました。今後の企画の参考にさせていただくため、アンケートに御協力をお願いします。（当てはまる番号に○を付けてください。）

問1 今回の企画の各パート及び全体について評価をしてください。

	良 く な か つ た	あ ま り 良 く な か つ た	ど ち ら と も い え な い	お お む ね 良 か つ た	良 か つ た
1) 公開授業	1	2	3	4	5
2) グループ討議	1	2	3	4	5
3) 全体討議	1	2	3	4	5
4) 企画全体として	1	2	3	4	5

問2 (1) 全学FDでは、討議型FDを取り入れ、グループ討議及び全体討議を実施していますが、どのように思いますか。

1) このままでよい 2) 変えたほうがよい 3) その他 ()

(2) (1) の回答について、理由・意見があれば記入してください。

問3 開催時期について、どう思いますか。

1) 今のままでよい 2) 変えたほうがよい(時期:)

問4 今後、より多くの教員・職員・学生に全学FD研修に参加していただくために、良い考えがあれば記入してください。

問5 今後の全学FD研修で、実施して欲しいテーマがあれば記入してください。

御協力ありがとうございました。最後にあなたの立場と御所属をお教えてください。

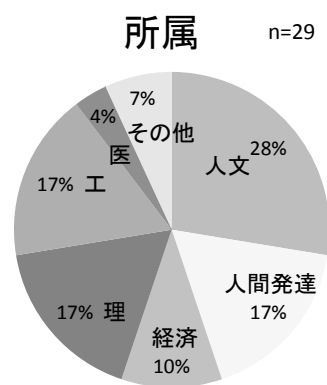
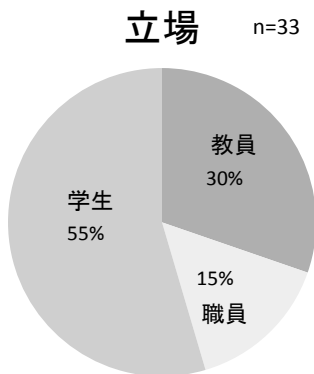
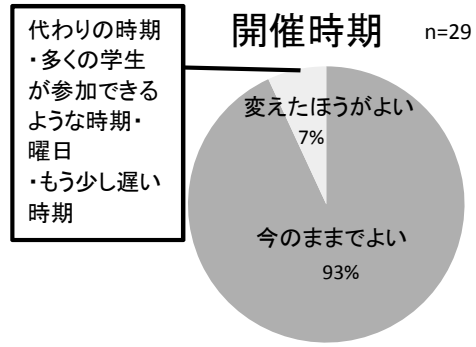
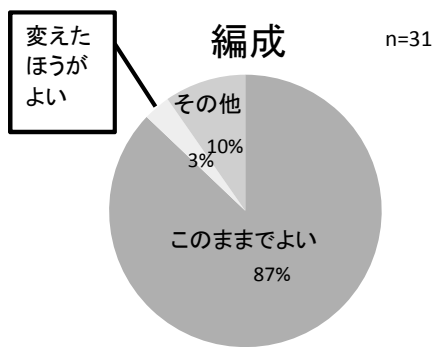
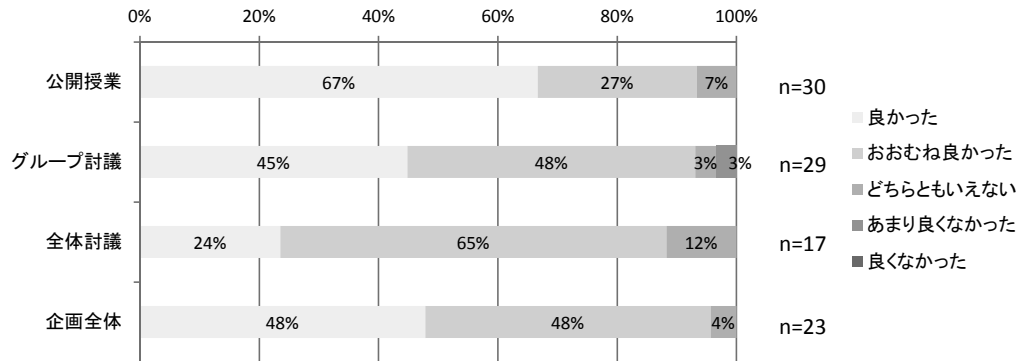
1) 教員 2) 職員 3) 学生

1) 人文 2) 人間発達 3) 経済 4) 理 5) 工 6) 医 7) 薬 8) 芸術文化
9) 都デ 10) その他 ()

全学FD2017 参加者アンケート集計

公開授業 番号 意味		選択番号 (記入数字)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	回答 数計
1	良くなかった	公開授業	0	0	2	8	20								30
2	あまり良くなかった		0%	0%	7%	27%	67%								-
3	どちらともいえない	グループ討議	0	1	1	14	13								29
4	おおむね良かった		0%	3%	3%	48%	45%								-
5	良かった														
全体討議 番号 意味		全体討議	0	0	2	11	4								17
1	良くなかった		0%	0%	12%	65%	24%								-
2	あまり良くなかった	企画全体	0	0	1	11	11								23
3	どちらともいえない		0%	0%	4%	48%	48%								-
4	おおむね良かった														
5	良かった	編成	27	1	3										31
企画全体 番号 意味			87%	3%	10%										-
1	良くなかった	開催時期	27	2											29
2	あまり良くなかった		93%	7%											-
3	どちらともいえない	変更時期 「月」	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	おおむね良かった		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	良かった	変更時期 「週」	0	0	0	0									0
編成 番号 意味			-	-	-	-									-
1	このままでよい	変更時期 「曜」	0	0	0	0	0	0	0						0
2	変えたほうがよい		-	-	-	-	-	-	-						-
3	その他	立場	10	5	18										33
開催時期 番号 意味			30%	15%	55%										-
1	今のままでよい	所属	8	5	3	5	5	1	0	0	0	2			29
2	変えたほうがよい		28%	17%	10%	17%	17%	3%	0%	0%	0%	7%			-
変更時期「曜」 番号 意味															
1	日														
2	月														
3	火														
4	水														
5	木														
6	金														
7	土														
立場 番号 意味															
1	教員														
2	職員														
3	学生														
所属 番号 意味															
1	人文														
2	人間発達														
3	経済														
4	理														
5	工														
6	医														
7	薬														
8	芸術文化														
9	都デ														
10	その他														

全学FD2017 参加者アンケート集計



全学FD 2017 参加者アンケート記述回答

◎問2 (2) 「(1)『全学FDでは、討議型FDを取り入れ、グループ討議及び全体討議を実施していますが、どのように思いますか。』の回答について、理由・意見があれば記入してください。」

○(1)で「1)このままでよい」と回答した人の回答

- ・グループ討議で学生が参加し、感想を聞けることは良い。
- ・討議型として「授業→グループ→全体」の流れは、とても良いから。
- ・グループ討議の時間は、もう少し取ったほうが良いと思いました。
- ・自分の考えを書いて話すことで自分の考えを整理する良い機会になる。
- ・流れや行うことがよく分かっていなかったため、分からないことが多かったが、全体的に新鮮で面白かった。
- ・普段ないから。
- ・このような企画を増やすべき。
- ・非常に盛り上がり、授業内容も楽しかったから。

○(1)で「2)変えたほうがよい」と回答した人の回答

- ・テーマ設定が甘すぎる。

○(1)で「3)その他」と回答した人の回答

- ・全学FDで感じたことが学部の教育に反映されていないように思うので。
- ・各学部のFDに出前してはどうか。
- ・時間がない・人が来ないグループ討議だったので、改善が必要では。

◎問4「今後、より多くの教員・職員・学生に全学FD研修に参加していただくために、
良い考えがあれば記入してください。」

- ・理系教育に本当に役立つ実践的実例紹介とその効果の科学的評価を周知し、各学部長から参加を依頼する。
- ・やはり新聞のような広報の手段を設けて成果を共有できるようにするべきでは。
- ・様々な教科に入れ込みやすいアイデアを総合的に盛り込んでいただければ、もっと参考にしたいという人が集まってくるのでは？汎用的ではないと感じた。今のままではリピーターは少ないと思う。
- ・もっと回数が増えて多様なテーマでの研修があると良い。
- ・討議型の場合、普段の授業から少しでも良いのでディスカッションの時間を設ける。
- ・直前まで実施を知らなかったなので、早めの広報が良かったと思います。
- ・FD研修に参加するメリットや魅力をもっと提示したほうが良いような気がします。
- ・もっと宣伝をしたら良いと思った。
- ・グループ討議の時間をもっと長くしてほしい。
- ・もっと宣伝する。(あまり知られていない。)
- ・この企画で変わったところを学生に報告する。

◎問5「今後の全学FD研修で、実施して欲しいテーマがあれば記入してください。」

- ・理系学生の体系的な知識定着に資するアクティブ・ラーニングの実例を紹介してほしい。
- ・ディプロマポリシーとの関連におけるアクティブ・ラーニングの実践。
- ・橋本メソッドの教員向け入門。「仕掛け」の解説を聞きたい。
- ・全国で実施されているアクティブ・ラーニングの利点をまとめられている人を外部から呼んで共感しやすい内容にする。(そのような人が居るかどうかは知りません。)
- ・ICTを取り入れた授業方法。
- ・反転授業。単位の実質化(の実現方策)。
- ・選挙の投票率を上げるためには。
- ・Active learningの在り方について一学ば“させる”Active learningは問題があるのかー。
- ・一般教養の在り方。

結びに代えて

全学FDは、2016年度から「富山大学モデル」というべき特殊な形態を採用し、今年度もそれを踏襲しました。形式としては、実際に開講中の授業の圧縮版を授業公開し、その後、受講した学生を交えてグループ討議、全体討議へと進むものです。今年度は人文学部の小助川貞二教授が開講されている教養科目の「職業と人生～富大流人生設計講座～」で協力にに応じてくれました。

昨年度の大坂先生の授業もそうでしたが、全学FDを開催する水曜日午後に臨時に日程変更することは受講生にとってはかなり支障が出るため、授業の正式な回とはせず、あくまで「可能な人が出席」という要請にとどめました。その代わりに、学生参画型FD組織であるUD Ma t e sのメンバーや私の授業の受講者にも参加を呼び掛けたところ、昨年度よりは多くの学生を確保することができ、ミニ授業も通常使用の大教室（C21）の前半分を利用する形をとりました。普段、その授業を受けていない学生にとっては、いきなり4回目の授業を受けるということになりましたが、テーマが恋愛であり、スムーズに受講できたと思われます。全体を3時間ほどの枠で開催しようとする、公開授業はどうしても40分程度の圧縮版にせざるを得ないという難点は残ったものの、普段使われている「気づきシート」に当日だけの受講者も自然に取り組んでいたようです。

この「富山大学モデル」は、本学の全学FDが追究している三つの特徴、すなわち、討議型FD・全構成員型FD・楽しむFDを具現化する形の一つとして、参加者からもおおむね好評ですが、ミニ公開授業をどう選ぶかという点や上述の難点、あるいは、時間の制約から公開授業の参観のみにとどまる参加者もおられるなど課題も多く、次年度にどうするかについては少し検討し直したいと思います。ただし、大学教育改善は教員、職員、学生が同じベクトルで推進しなければ実効性が薄いという観点からは、学生の生の声を聞く貴重な機会でもあり、今年度はグループ討議・全体討議に残った職員もおられるなど、光もさしているように感じるため、仮に別の方向性を考える場合でもこの精神は何らかの形で引き継ぎたいと思います。

なお、学務部の多くの職員の方々には、討議会場の設営等で今年度も大変お世話になりました。深く感謝します。

教育推進センター 副センター長
橋 本 勝

[付記]

例年通り、全学FDとは別に、約2週間後の11月11日（土）に、学生参画型FDイベント（＝第7回UD T a l k）も開催し、約30名の学生・教員・職員・一般市民・他大学の教職員が参加して大学教育に関する活発な意見交換を行いました。昨年は参加があった高岡キャンパスからの参加学生が今年はなかったものの、次年度から共通教育の推進で3キャンパスの学生交流が進むことが期待され、教職員の積極的参加に期待します。

全学FD2017
大人数講義型授業でのアクティブラーニングの試み
～授業公開及び受講学生も交えたFDの新モデル（3）～
報告書

発行／2018年3月

編集・発行／富山大学教育・学生支援機構教育推進センター
富山市五福3190番地